

## 高木仁三郎市民科学基金 助成研究/研修 完了報告書

提出日：2008年5月1日

## 1. 氏名・グループ名及び研究テーマ

氏名(グループ名)	長島の自然を守る会
連絡先・所属など	747-0841 山口県防府市大字下右田 387-14
調査研究・研修のテーマ	上関原発詳細調査による自然環境・生態系へのダメージの検証

## 2. 調査研究・研修結果の概要

2007年4月～2008年3月まで、四季にわたる自然環境・生態系調査を計21回、延べ218人の参加で行った。

その結果、これまでも、カラスバトやヤシマイシン近似種の生息確認など調査のたびに新たな知見を得てきたが、2007年度は特に以下の6点が成果として挙げられる。( ) 海域ボーリング予定地点の直ぐ近くで、山口県光市では県の天然記念物に指定されているクサフグの産卵を確認した。( ) 海域ボーリング予定地点の直ぐ近くで、最近では全国的に減少しているアカテガニの放仔の撮影に成功した。( ) 山口県準絶滅危惧種オオコハズクを標識調査で確認した。( ) 海藻・湧水など新たな研究チームの参加で、田ノ浦は雨量にして1日700mmにも達する豊富な湧水が湾内に還流し、瀬戸内海でもっとも豊かな魚類や希少な生物層の生息基盤となっていることが解明された。( ) 新たに手がけたプランクトン調査によっても、カサシャミセンの幼生やウニ・ナマコなどの漁業資源の幼生が多いことが裏付けられた。( ) 取水口予定地付近で、山口県準絶滅危惧種ヤマセミを確認した。

こうした成果を以って、中国電力の原子炉設置許可のための詳細調査による自然破壊が日々刻々と進む中、環境面からの追求の手を緩めず、中国電力に種類の追加調査をさせ、ホームページ上に自然環境調査結果を掲載させている。瀬戸内海では30年ぶりの確認となったスギモクが減少しているのを突き止め、申入れで陸域工事やボーリングの影響を指摘した。

これまで自然科学研究者との連携が主であったが、コモンズ学など社会科学研究者との連携も始まった。( '08.2.24.里山・里海シンポジウム開催) 普及活動についても、新たな拡がり生まれた。アースデイ出展(東京・山口)をはじめ、京都大学学園祭や広島県福山市など開催地の支援者が中心となり、シンポジウム&写真展を企画して貰える普及活動の拡がりが見えた。

今後の展望としては長島の生態系の新たな側面の解明や詳細調査によるダメージを検証するため、鳥類・哺乳類・海生生物・植生・海藻など四季にわたる調査をさらに継続強化する。特に湧水・伏流水による“海の健康度”チェックの提案を行い、長島の生態系の豊かさを浮き彫りにする。ラムサール条約登録のための予備調査や自然の権利訴訟における立証のためのデータとして活用していく。

また、持続可能な自然と共生する事業の実験的試行として“祝島未来航海プロジェクト”との連携を図り、金漆の再生研究 長島に多数生育しているカクレミノを利用した金漆の再生研究を行う。

## 3. 調査研究・研修の経過

1. 自然環境・生態系調査		
2007. 4. 14.	スギモク & 湧水調査 * 指導者：新井章吾（海藻研究所）菊池亜希良（広島大学）	* 参加者：16名
5. 3.	植物・海岸付着生物定量調査・潮下帯海生生物・海水汚濁度	
5. 4.	* 指導者：向井宏（北海道大学）山下博由（貝類保全研究会） 西濱士郎（ベントス学会）湯浅一郎・安溪遊地・貴子（山口 県立大学）野間直彦（滋賀県立大学）	* 参加者：41名
6. 10.	潮間帯調査(クサフグ産卵撮影)	* 参加者：3名
6. 23.	ランの調査撮影	
6. 24.	ランの調査撮影	* 参加者：4名
7. 28.	大阪湾海岸生物研究会及び山口貝類研究談話会との共同調査	
7. 29.	大阪湾海岸生物研究会及び山口貝類研究談話会との共同調査	* 参加者：25名
7. 30.	大阪湾海岸生物研究会及び山口貝類研究談話会との共同調査	
8. 25.	湧水・プランクトン調査、環瀬戸内海会議との海岸生物調査 * 指導者：向井宏（北海道大学）・菊池亜希良（広島大学）	* 参加者：19名
8. 26.	自然の権利裁判に向けての弁護士との意見交流 * 弁護士：籠橋隆明	* 参加者：25名
10. 6.	湧水・海藻・鳥類・植物調査	
10. 7.	湧水・海藻・鳥類・植物調査	* 参加者：16名
10. 8.	湧水・海藻・鳥類・植物調査 * 指導者：新井章吾・菊池亜希良	
11. 24.	海藻・湧水・鳥類調査 * 指導者：新井章吾・菊池亜希良・梶畑哲二	* 参加者：8名
12. 23~24	鳥類調査	* 参加者：4名
2008. 1. 4~5.	鳥類調査	* 参加者：4名
2. 10.	スギモク & 湧水調査 * 指導者：新井章吾・菊池亜希良	* 参加者：8名
2. 23.	里山 & 里海シンポジウムエクスカージョン	* 参加者：29名
3. 8~9.	スギモク & 湧水調査	* 参加者：11名
3. 30~31.	ヤマセミ調査	* 参加者：5名
2. 自然観察会の開催		
2007. 4. 15.	スギモク観察会	* 参加者：9名
6. 10.	スナメリウォッチングツアー	* 参加者：45名
7. 31.	アカテガニ観察会	* 参加者：10名
2008. 3. 9.	スギモク観察会	* 参加者：9名

## 4. 調査研究・研修の成果

## 生態系の貴重さを新たな側面から立証

これまでも、カラスバトやヤシマイシン近似種の生息確認など調査のたびに新たな知見を得てきたが、2007年度は特に以下の4が成果として挙げられる。（ ）海域ボーリング予定地点の直ぐ近くで、山口県光市では県の天然記念物に指定されているクサフグの産卵を確認した。（ ）海域ボーリング予定地点の直ぐ近くで、最近では全国的に減少しているアカテガニの放仔の撮影に成功した。（ ）山口県準絶滅危惧種オオコハズクを標識調査で確認した。（ ）海藻・湧水など新たな研究チームの参加で、田ノ浦は雨量にして1日700mmにも達する豊富な湧水が湾内に還流し、瀬戸内海でもっとも豊かな魚類や希少な生物層の生息基盤となっていることが解明された。（ ）新たに手がけたプランクトン調査によっても、カサシャミセンの幼生やウニ・ナマコなどの漁業資源の幼生が多いことが裏付けられた。（ ）取水口予定地付近で、山口県準絶滅危惧種ヤマセミを確認した。

### 新たな学会&研究者との連携

これまで自然科学研究者との連携が主であったが、コモンズ学など社会科学研究者との連携も始まった。( ' 08.2.24.里山・里海シンポジウム開催)

### シンポジウムなどの普及活動の拡がり

普及活動についても、新たな拡がり生まれた。アースデイ出展(東京・山口)をはじめ、京都大学学園祭や広島県福山市など開催地の支援者が中心となり、シンポジウム&写真展を企画して貰える普及活動の拡がりできたことは大きな励みになっている。

## 5. 対外的な発表実績

3. 論文・シンポジウムなどでの発表	
2007.4.21.	* アースデイ東京での出展
4.21.~22.	* アースデイ山口での出展
6.10.~11.	* K R Y山口放送でのクサフグ放映
6.14.	* クサフグの記者会見
6.20.	* 山口県立大学非常勤講師「瀬戸内の原風景 長島の自然」
7.	* クサフグの寄稿(山口反原発3団体の通信/広島原発はごめんだの会)
8.5.	* 原水禁世界大会“ひろば”でのプレゼンテーション
7.27~29.	* 宮城県の星まつりからの招聘・参加
11.23.	* 山口シンポジウム
11.25.	* 上関シンポジウム
11.25.	* 京大学園祭での講演ならびに写真展
2008.3.6.	* 尾道まちかど記念館での写真展及び報告
3.27.	* K R Y山口放送でのスギモク放映
4. 行政・中国電力への申入れ	
2007.4.23.	* 山口県への申入れ(反原発3団体と共同:詳細調査ダメージ)
7.9.	* 山口県への申入れ(クサフグ・詳細調査ダメージ)
8.23.	* 中国電力への申入れ(クサフグ・アカテガニ・詳細調査ダメージ)

## 6. 今後の展望

### 1. 自然環境・生態系調査の強化

**定期調査** 長島の生態系の新たな側面の解明や詳細調査によるダメージを検証するため、鳥類・哺乳類・海生生物・植生・海藻など四季にわたる調査を行う。

**湧水・伏流水による“海の健康度”チェックの提案** 2008年度は特に、長島のモデルを基に、環瀬戸内海会議など瀬戸内海一円における市民による湧水・伏流水調査を提言し、“海の健康度”を計れるようにする。データを蓄積するとともに、調査結果から長島の生態系の豊かさを浮き彫りにする。

**四季にわたるプランクトン調査** 漁業資源をはじめ、長島の生態系を裏付けるため、プランクトン調査を四季にわたり行い、漁業補償裁判や自然の権利訴訟の武器にする。

**ラムサール条約登録のための予備調査** 瀬戸内海周防灘東域(周防大島・平郡島・祝島・長島・牛島・光市室積半島)を“スナメリをはぐくむホットエリア(仮称)”としてラムサール条約登録候補地をめざす実行委員会を立ち上げる準備に入る。長島だけでなく、登録地の適格性をより広範囲な調査によって立証する。

**自然の権利訴訟における立証** 環境アセスメントのやり直しを求める提訴に際し、これまでの調査研究実績とともにできるだけあらたな知見を蓄積する。

具体的日程

2008年5月/7月/10月,2009年1月/3月に鳥類・哺乳類・海生生物・植生・海藻・湧水・プランクトン調査などを予定している。

## 2. 持続可能な自然と共生する事業の実験的試行

“祝島未来航海プロジェクト”との連携 現在、商品化されていない海藻を利用した料理を開発するとともに、海藻の刈り取りによって、稚魚の産卵場を確保し、漁業資源を増やす試みを科学的なデータを取りつつ行う。

金漆の再生研究 長島に多数生育しているカクレミノを利用した金漆の再生研究を行う。

## 3. 調査研究結果の普及

ラムサール条約締結国会議の世界NGOフォーラムへの参加 '08年10～11月に昌原（韓国）で開催されるフォーラムに参加する。

シンポジウム&パネル展の開催 調査研究成果を一般市民に普及させるためシンポジウム&パネル展を開催する。（2008年6月”福山（広島県）シンポジウム”開催予定、7月12～13“里海シンポジウム”祝島で開催決定）

“長島の生き物たち（仮称）”の発刊 調査研究成果をブックレットにまとめる。

## 高木基金へのご意見

**7. 完了報告 英文概要**

Recipient Name	
Belonging / Contact Address < 公表可能な問い合わせ先・ メールアドレスなど >	
Theme of Research/Training	
Name of the Organization Providing Training < 研修の該当者のみ >	

< 以下の空欄に前記 2 . に対応する内容を英文で記載して下さい。 >

**8 .** < 高木基金の助成についてのご要望・ご感想など、  
忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。 >

< 以上です。ご協力ありがとうございました。 >